

15 泌尿器科研修プログラム

I 一般目標 (GIO)

泌尿器科疾患の診断と治療に必要な知識および基本的手技を習得するとともに、患者との良好な人間関係を保つ姿勢を身につける。

II 経験目標 (SBO s) (各項目の※は必修項目、)

A 経験すべき診察法・検査・手技

1. 基本的な身体診察法

1) 泌尿・生殖器の診察 (産婦人科的診察を含む) ができ、記載できる。

2. 基本的な臨床検査

病態と臨床経過を把握し、医療面接と身体診察から得られた情報をもとに必要な検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる。

(A) : 自ら実施し、結果を解釈できる。その他 : 検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる。

1) 一般尿検査 (尿沈渣顕微鏡検査を含む) ※

2) 単純X線検査 ※

3) 造影X線検査

4) X線CT検査 ※

3. 基本的手技

基本的手技の適応を決定し、実施することができる。

1) 穿刺法 (腰椎) を実施できる。※

2) 導尿法を実施できる。※

3) ドレーン・チューブ類の管理ができる。※

4) 局所麻酔法を実施できる。※

5) 創部消毒とガーゼ交換を実施できる。※

B 経験すべき症状・病態・疾患

1. 頻度の高い症状

1) 腹痛 ※ R

2) 腰痛 ※ R

3) 血尿 ※ R

4) 排尿障害 (尿失禁・排尿困難) ※ R

5) 尿量異常

2. 緊急を要する症状・病態

1) 急性腎不全

2) 急性感染症

3. 経験が求められる疾患・病態

(A)疾患については入院患者を受け持ち、(B)疾患については、外来診療または受け持ち入院患者 (合併症含む) で自ら経験すること

- 1) 泌尿器科的腎・尿路疾患（尿路結石、尿路感染症）※（B）
- 2) 男性生殖器疾患（前立腺疾患、勃起障害、精巣腫瘍）※（B）
- 3) 細菌感染症(ブドウ球菌、MRSA、A群レンサ球菌、クラミジア)※（B）
- 4) 真菌感染症（カンジダ症）
- 5) 性感染症

Ⅲ 方略 (LS)

1. 研修の場は、泌尿器科外来、手術室、泌尿器科病棟(5F)での診療である。
2. 研修の指導にあたるのは、外来においては各曜日の外来担当医であり、病棟においては指導医および受持ち患者の主治医である。
3. 研修医は副主治医として、主治医とともに入院患者を受け持つ。
4. 研修医は主治医の指導のもとで、受け持った患者の診療に直接携わる。

A 病棟における研修

- (1) 病棟回診に同伴し、必要に応じて診察の介助あるいはカルテの記載を行う。
- (2) 入院受持ち患者の診察は毎日行い、SOAP形式に従って所見をカルテに記載する。
- (3) 主治医とともに、受け持ち患者の検査や治療計画の立案を行う。
- (4) 患者またはその養育者の許可が得られれば、主治医（またはこれに代わる指導医）の監視のもとで、受持ち患者の検査あるいは治療を自ら行う。
- (5) 週1回の病棟カンファレンスに参加し、受持ち患者のプレゼンテーションを行う。
- (6) 受け持ち患者が退院した際には、退院サマリーを作成する。

B 外来における研修

- (1) 新患については可能な限り予診を担当し、その結果をカルテに記載する。
- (2) 外来担当医に同伴し、必要に応じて診察の介助あるいはカルテの記載を行う。
- (3) 患者またはその養育者の許可が得られれば、外来担当医の監視のもとで、外来検査および治療を自ら行う。

C 手術室における研修

- (1) 脊椎麻酔を指導医または上級医の指導下に行い手技を習得する。
- (2) 泌尿器科手術の見学・助手を行い、泌尿器科基本手術手技を理解する。

週間スケジュール

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土(第1のみ) |
|----|---------|------|------|------|------|---------|
| 午前 | カンファレンス | 外来研修 | 手術研修 | 外来研修 | 手術研修 | 病棟研修 |
| 午後 | 手術研修 | 病棟研修 | 手術研修 | 病棟研修 | 病棟研修 | |

指導体制

責任指導医：荒木英盛

指導医：成島雅博

上級医：成田英生、角田夕紀子、花井一旭、上條駿介

病棟師長：森本泉

IV 評価 (EV)

1. 研修医評価票の各項目につき、指導医が評価を行う。
2. 経験すべき症候及び経験すべき疾病・病態について病歴要約で履修状況を確認する。